

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲 ㊦ 第	号	氏 名	長 島 由 佳
論文審査担当者 主 査 小児科学 長谷川 奉 延 衛生学公衆衛生学 岡 村 智 教 産婦人科学 田 中 守 内科学 林 香 学力確認担当者：金井 隆典 審査委員長：岡村 智教 試問日：2024年10月 7日				
(論 文 審 査 の 要 旨)				
論文題名：Underweight in young Japanese women over time: a longitudinal retrospective study of the change in body mass index from ages 6 to 20 years (やせの若年日本人女性における6～20歳のbody mass indexの縦断的推移に関する後方視的研究)				
若年女性のやせは自身および次世代に健康障害を生じるリスクが高く問題視されているが、若年女性がいつからどのようにやせに至るかについては明らかにされていない。本研究では、1コホートにおける縦断的データの解析により、やせの若年日本人女性における小児期からのBMIの推移には、“体質性やせ”と16歳以降のやせ方向への体型変化の2つの特徴があることを明らかにした。				
審査では、やせ方向への体型変化が始まる年齢が16歳および13～14歳であった理由について問われ、中高生女子の7～8割がやせ願望を持つという調査があることから、いずれの年齢においてもやせ願望からいわゆるダイエットを行ったためと推測すると回答された。2000年代初頭における標準的な初経年齢を問われ、12歳前後と回答された。やせることで初経年齢に影響があったか問われ、初経年齢の聞き取りを行っておらず不明であると回答された。対象集団の小学校入学時のやせの割合について問われ、全国調査と同程度であると回答された。対象集団の20歳時の肥満の割合について問われ、全国調査より少ないと回答された。やせの若年男性を対象とした検討結果および女性との差異について問われ、男性では“体質性やせ”と13歳以降のやせ方向への体型変化の2つの特徴を認め、女性より男性の方がやせ方向への体型変化を認める年齢が低いという差異を認めたと回答された。体質性やせと後天的にやせ方向への体型変化を認めた者との間で、大学生時における月経不順などの健康障害の割合に差があったか問われ、月経不順などの情報を収集しておらず不明であると回答された。本研究のデータは出生体重と紐づけられているか問われ、紐づけはなされていないと回答された。やせへの介入に本研究の結果をどのように活かすか問われ、注意すべき対象が中高生とわかったので中学・高校の学校保健現場でのやせの早期発見を推進すると回答された。大学卒業後の縦断的データ収集について問われ、成人健康診断時のデータと学校健診データとの連結を検討中であると回答された。出生時と6歳時の体型の関連について問われ、6歳時ではないが5歳時やせの児は出生時から一貫してBMIが低値であることが報告されていると回答された。サブグループ解析の4群間における身体計測値以外の差異について問われ、身体計測値以外の情報は収集しておらず不明であると回答された。やせへの介入に対して抵抗を示された場合にどのように啓発するか問われ、現時点では特に体質性やせに対する介入の根拠は乏しいが、今後、健康障害リスクの実態を明らかにして説得力のある啓発につなげたいと回答された。				
以上のように、本研究は、身体計測値以外の情報との関連性など検討すべき課題を残しているものの、若年日本人女性のやせに関する研究の礎となるという点で有意義な研究であると評価された。				